

⑬ 日本国特許庁(J P)

⑭ 特許出願公開

① 公開特許公報(A) 昭61-279272

① Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

② 公開 昭和61年(1986)12月10日

A 63 F 7/02

3 5 0

Z-6777-2C

B-6777-2C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全6頁)

⑤ 発明の名称 E L素子表示部を備えたパチンコ機

⑥ 特 願 昭60-121305

⑦ 出 願 昭60(1985)6月3日

⑧ 発 明 者 福 島 征 一 郎 名古屋市千種区今池2丁目1番27号 株式会社三洋物産内

⑨ 出 願 人 株式会社 三洋物産

名古屋市千種区今池2丁目1番27号

⑩ 代 理 人 弁理士 廣 江 武 典

明 細 書

1. 発明の名称

E L素子表示部を備えたパチンコ機

2. 特許請求の範囲

1). パチンコ機の前面側にE L素子を使用した表示部を設け、このE L素子表示部によってパチンコ機の入賞、当籤パチンコ機における遊技の終了、故障等の各種表示を行なうようにしたことを特徴とするパチンコ機。

2). 前記E L素子表示部を前記遊技終了の中央部に設けることによって、このE L素子表示部が遊技中の遊技者の目に入り易いようにしたことを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のパチンコ機。

3). 前記E L素子表示部に印加される電圧が、当該パチンコ機のパチンコ球発射装置のハンドルの回転量によって変化するようにするとともに、このハンドルの回転量の変化によって前記E L素

子表示部の表示色を変化させて、このE L素子表示部の表示色の変化によって前記パチンコ球の発射強度を目で確認することができるようにしたことを特徴とする特許請求の範囲第1項または第2項に記載のパチンコ機。

4). 前記E L素子表示部を、前記遊技終了の上側に設ける呼出ランプに代えて配設したことを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載のパチンコ機。

3. 発明の発明者説明

(産業上の利用分野)

本発明は、E L素子表示部を備えたパチンコ機に関するものである。

(従来の技術)

パチンコ機においては、パチンコ球の入賞、当該パチンコ機における遊技の終了、係員の呼出、故障等の各種表示を各パチンコ機機に行なえるようにしてある。

特開昭61-279272 (2)

ところで、従来のこの各種表示は通常小さい電球によって行なわれているが、次のような種々な欠点があった。すなわち、

①通常、電球はネジ込み式のものが多く、パチンコ機にええられる振動等によってこのネジ込み部が緩むことがあり、僅んど電球は改めてネジ込みをしなければならぬ。

②度々なる点滅によって、当該電球は球切れを生ずるから、この場合には当然にこれを交換しなければならぬ。

③電球はその取付部分を固定しておかなければならないが、パチンコ機にあっては通常遊技部内に大きな孔加工を施し、その中に取附している。すなわち、遊技部内に対する大きな孔加工がどうしても必要である。

④それだけではなく、電球のネジ込み部が腐んだり、また球切れが生じた場合に、そのメンテナンスを行なわなければならないため、当該電球の

取付部分は電球が収納できる以上の大きさのものとして確保しておく必要がある。このことは、スペースが非常に限られているパチンコ機の遊技部内においては、電球の取付部を確保するための設計・製造上において新なる困難を生じている。

⑤さらに、電球による各種表示は従来に行なわれていることであって新鮮味がなく、当該者の楽しみが年を追って変化してきている状態に対応し、されていないのが実状である。

⑥さらに、電球による表示の場合、通常電球は白色しか発光しないため、その上に色のついたプラスチック板等を配置しないと必要な色が得られない。しかも、視野角を確保するために、当該プラスチック板には透光加工を施しておかなければならない。

ところで、最近他の発光素子に比べて大面積の発光部を作ることもできるエレクトロ・ルミネッセンス)素子が開発され、実用化の目途

も立つようになってきた。しかも、このエミ素子としては、これに相当する電圧を変化させることによって、いろいろな色を出せることができるようになってきている。

発明者等は、この近年の技術の進歩に着目し、当該エミ素子を上述したような現状のパチンコ機に適用すれば、前述その問題の解決を図ることができるのではないかと鋭意研究を重ねてきたのである。

〔発明が解決しようとする問題点〕

本発明は以上の実状に鑑みてなされたもので、その解決しようとする問題点は、各種表示装置をパチンコ機に取付ける際の困難性、及び従来の表示装置の新鮮味のなさである。

そして、本発明の目的とするところは、エミ素子を利用することによって、パチンコ機に対する表示装置の取付けを容易にするとともに、新鮮な遊技を行なうことのできるパチンコ機を提供する

ことにある。

〔問題点を解決するための手段〕

以上の問題点を解決するために本発明が採った手段は、実効例に対応する図面を参照して説明すると、

パチンコ機(10)の前部壁にエミ素子を使用した表示部(20)を設け、このエミ素子表示部(20)によってパチンコ機の入賞、当該パチンコ機における遊技の終了、故障等の各種状態を行なうようにしたことを特徴とするパチンコ機(10)である。

次に、この構成を備った本発明を、図面についてさらに詳細に説明する。第1図に本発明を適用したパチンコ機(10)の正面図が示してある。このパチンコ機(10)においては、その遊技部内(12)の中央部にエミ素子表示部(20)が配設してある。エミ素子表示部(20)は、第2図に示したように、前面に設置するガラス板(21)の背後に、発光部(2

特開昭61-279272 (3)

2a)(22b)と駆動制御部(20)とを併せたものでありその発光部はほぼ完全な平面である。

また、発光部(22a)(22b)は、第3図に示したように、発光部が異なる一對の発光層を有するもので、これらにそれぞれ独立したあるいは同時に電圧を印加することによって所定の発光を行なうものである。本発明において使用されるエミ素子表示部(20)の発光層(22a)(22b)においては、被光媒質にある種の陽子導電性発光のフッ化物を添加することによって様々な色の発光を発生することができるようにしたものである。(例えば陽子導電性発光としてサマリウムを使用すれば赤、ネオジムはオレンジ、テルビウム・ホルミウム・ユルビウムの場合は青色である)そして、印加する電圧によってその色調を異なるものとするができるものである。

このエミ素子表示部(20)は、第5図に示したように、駆動部(12)の中央部に開口(この部分に

会には、駆動部(12)の中央部に設けた場合のようにその上をパチンコ球が通過しない部分であるから、エミ素子表示部(20)を枠体(11)または駆動部(12)等に直接取り付けること以外は、枠体(11)または駆動部(12)に対して全く加工を必要としない。

(発明の作用)

本発明が以上のような手段を採ることによって以下のような作用がある。すなわち、このパチンコ球(10)においてはエミ素子表示部(20)による発光が、従来の場合に比して拡大された平面において行なわれ、しかも第1図に示したように駆動部(12)の中央部に形成した場合には駆動部の目に入り易く表示発光は非常に高い。そして、このパチンコ球(10)に採用されたエミ素子表示部(20)は極めて平面的なものであるため、これを収納するための空間は殆ど必要がなくなっている。

また、このエミ素子表示部(20)はそれ自体固定

は従来より各種の表示部を取付けるために孔開け加工がされている。)を設けて、この開口内にガラス板(21)、発光部(22a)・(22b)及び駆動制御部(23)を一体化したエミ素子表示部(20)を収納して固定してもよいが、本発明例においてはその開口に示したようにした。すなわち、エミ素子表示部(20)の内部駆動制御部(23)のみを他の部分とは別部にし、これを駆動部(12)の背面に配置した。この場合、駆動部(12)には駆動制御部(23)からのリード線が通る開口(12a)を設けるのに留めた。このようにすれば、駆動部(12)の加工が容易だからである。

勿論、このエミ素子表示部(20)を駆動部(12)の中央部に設ける場合のみに限らず、例えば第1図あるいは第6図に示したような駆動又は入直表示部(13)、終了又は入直表示部(14)等に適用できることはいうまでもない。駆動又は入直表示部(13)及び終了又は入直表示部(14)として使用する場

合のものとして好適することができるから、従来の電球を使用した表示装置のように、取付部が煩雑で、取付けを要したりすることは全くない。しかも、当該エミ素子表示部(20)の表示そのものは、従来の電球によるいわば点による表示とは異なり、比較的広い面によって行なうため、従来よりも明るい状態で表示を行なうことができるから、表示発光を極めて高いものとしている。勿論、この場合の電力消費と従来の電球の場合に比して少なくすることができるものである。

また、第4図に示した実施例の場合のように、エミ素子表示部(20)を駆動制御部(23)とこれ以外の部分に分けて、駆動制御部(23)は駆動部(12)の背面に配置し、その他の部分を駆動部(12)の前面に設けようすれば、駆動部(12)にリード線のための開口(12a)を設けるのみでよく、駆動部(12)に対して大きな孔加工を施す必要は全くなくなる。

(實施例)

次に本発明の他の実施例について第7図～第9図を参照して説明する。第7図及び第8図は、且し表示部(20)に印加する電圧をハンドル(30)の回転量によって変えようとする場合のものである。この場合、ハンドル(30)内にはこのハンドル(30)の回転量を電圧の変化に変換するための電圧制御部(31)が取組んである。この電圧制御部(31)は、ハンドル(30)の回転量に応じた電圧を連続的に変化させて、上述した送電部(12)に供給し、この電圧の変化によって且し表示部(20)における表示色を連続的に変化さそうとするものである。そして、この電圧制御部(31)からの電力は、第1図に示した且し表示部により構成したハンドル強度表示部(32)に供給され、このハンドル強度表示部(32)においてハンドル(30)の回転量に応じた表示色の変化を表示するものである。

このように構成した場合には、運転者がハンド

ル(30)を操作するとその操作力に応じた色の表示がハンドル強度表示部(32)において表示される。従って、このようにした場合は、その運転者の府々の強さに応じた色がハンドル強度表示部(32)において表示されるため、運転者は自分の府々に合った色になるまでハンドル(30)を回転すれば、常に一定したハンドル(30)の強さを目で直ちに確認することができるのである。

また、第9図に示したように、且し表示部(20)を呼出表示部(15)に適用するようにして実施してもよい。このような場所の呼出表示部(15)に且し表示部(20)を適用すれば、且し表示部(20)は比較的大きく表示面を有し、その視野角は大きなものとなっているから、パチンコ筐内の係員にも適切に目に入るようにすることができるし、送電部が係員を呼ぶ場合に非常に効果的に行なうこともできる。

(発明の効果)

以上詳述した通り本発明に係るパチンコ機(10)にあつては、パチンコ機の前面側に且し表示部を用いた表示部を設け、この且し表示部によってパチンコ球の入賞、当球パチンコ機における遊技の終了、取替等の各種表示を行なうようにしたことにより、その効果があり、これにより、各遊技装置のパチンコ機に付する改付を容易にすることができる。また当該且し表示部(20)は、その取組場所として大きな場所を確保しておく必要がないから、当該パチンコ機に必要な他の部材を取付け容易性を保つておくことができ、ひいてはパチンコ機の遊技を今まで以上に面白くすることができる。

また、パチンコ機(10)に使用される且し表示部(20)による表示は、従来の電球によるそれとは異なり、且し表示部(20)の表示部全体で所望の表示を行なうものであるから、遊技場にとって今までにない新鮮な遊技を行なうことができると

ともに、従来の表示装置のように放光するためのプラスチック製部材を考慮する必要が全くなくなる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明に係るパチンコ機の正面図、第2図は且し表示部の部分斜視図、第3図は且し表示部の要部拡大断面図、第4図は第1図のB-B線に沿って見た拡大側面図、第5図は第4図の他の実施例を示す側面図、第6図は第1図のC-C線に沿って見た部分拡大正面図、第7図はハンドルの縦断面図、第8図は第7図のD-D線に沿って見た断面図、第9図は本発明の他の実施例を示す正面図である。

符号の説明

10…パチンコ機、11…枠体、12…送電部、13…電動又は入賞表示部、14…終了又は入賞表示部、15…呼出表示部、20…且し表示部、21…ガラス板、22a 22b…発光部、22…駆動制御部、30

特開昭61-279272 (5)

…ハンドル、21…電圧調整部、32…ハンドル後部
表示部。

特許出願人

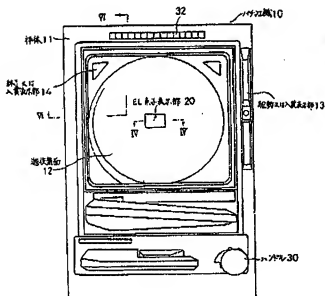
株式会社三洋電産

代理人

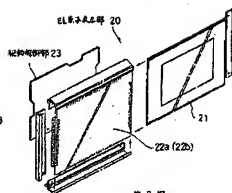
弁理士 廣江 義典



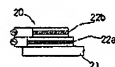
第1図



第2図

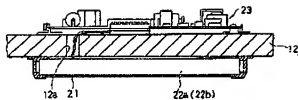


第3図

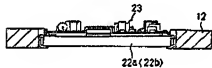


特開昭 61-279272 (B)

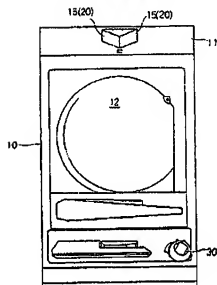
第 4 図



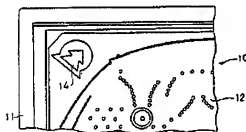
第 5 図



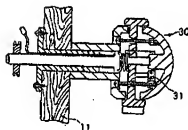
第 9 図



第 6 図



第 8 図



第 7 図

